

慶進高等学校の「今」をつたえる

The Keishin Times



03



様々な「絆」の綾が織りなす 「慶進」という暖かい羽織

VOL.3 TOPICS

- 02 祝卒業
- 03 恩師との不変の絆
- 04 君に託す「慶進」の「心」
- 05 このページは生徒カイ!?
- 06 慶進の小窓

慶進高等学校

〒755-0035
山口県宇部市西琴芝2丁目12-18
☎ 0836-34-1111 ㊚ 0836-21-7228
ks@keishin-ug.com

古代の紙とも言うべきパピルスが、十九世紀末のエジプトで大量に見られました。一八〇〇年前にしたためられた手紙には、次のような一節があります。「息子のエピクリシスを祝い、宴に招待する」と。エピクリシスとは、ローマ帝国時代のエジプトにおける成人式のようなものです。父親のホレイオンが、息子の成長と大人への門出を祝い、友人を招待したのでしょうか。この古代の父親の喜びは、現代の我々にも通じるものです。慶進生が成長し、卒業という門出を向かえることに、我々は大きな喜びを感じます。

慶進での様々な人間との出会いが、慶進生を成長させてくれました。友誼を深め、時に衝突もしました。しかし、それが、慶進生を磨いていきます。この慶進での出会いを、我々は「絆」と呼んでいいでしょう。多様な「絆」の綾が、慶進生を逞しく、大きく成長させてくれます。

先生と慶進生の「絆」、部活の先輩と後輩の「絆」、そして、卒業する慶進生との「絆」も、不変に存在し続けます。三十年、四十年経とうとも、我々は「慶進」という巣から、慶進生との「絆」を大切にしています。それは、朽ちることのない「絆」が織りなす暖かい「羽織」のようなものでしょう。

この「絆」の端切れを本号ではお伝えします。ただ、ことのほか、寄稿された記事が多く、紙面を超過していました。また、卒業生と恩師の語らいも、時を忘れる程でした。これらは、望外の喜びでもありました。そこで、三月一日以降、進学実績とともに、それらを「慶進」のHPに随時掲載いたします。是非、HPもご覧下さい。

祝卒業

二十二年卒業生の皆さんへ

校長 縄田 研吾



卒業おめでとうござい

ます。

アドバンスコース・グローバルコースの皆さんは7期生として、中高一貫コースの皆さんは2期生として慶進の新しい歩みのなかで意識を高め、それぞれ特色を活かしてよく頑張ってきました。

先生方の生き甲斐と

なる、後輩の誇りや励みとなる結果もたくさん出てきました。これからも感謝の気持ちを忘れずに、校訓の教えを基にしっかりと学んでいただきたいと思っています。

終わりに学園を創立され、教育の夢を求めて力を尽くされました二木謙吾先生がおりにふれ、お話をしておられました「健康、挨拶、努力」という三つの言葉をあらためて皆さんに贈り、益々の前進を祈念いたします。

旅立つ君たちの背中に喜びを感じる。しかし、そこはかとない寂しさも感じる。慶進を巣立つ君たちに誰よりも喜びと寂しさを感じるのは担任の先生です。そんな先生方のメッセージを贈ります。君達と慶進を繋ぐ最高の「絆」です。

アドバンスコース

1組担任
小林 隆浩 先生

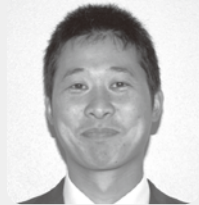
卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

慶進で過ごした三年間、いろいろな思いがあると思います。勉強、部活動に汗水を流し一生懸命に励んだ日々、学校行事にクラス、仲間と協力し作り上げたこと、楽しかったこと、苦しかったことが思い出されることと思います。高校生活で得た貴重な経験をこれからの人生に活かし、夢と希望を持って、しっかりと歩んでいくってください。

2組担任
増井 健人 先生

ご卒業おめでとうござい。今、心の底から「ありがとう」という感謝の気持ちで胸がいっぱいです。これからみなさんは社会に出て色々な場面

グローバルコース

1組担任
深野 晃宏 先生

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

そして、何よりこれまで陰ながら支えてくださった、保護者のみなさま本当に。おめでとうござい。いよいよ新たな世界へのスタートですね。これから、多くの人との出会いがみなさんを大きく成長させてくれるものと思います。山あり谷ありの人生ですが「最後は自分で決める」この事を忘れずに、責任を持った生き方をしてください。『心のコップ』を上向きに、勝負をかけましょう。みなさんの成長を慶進で楽しみに待っています。

3組担任
大冢和 治美 先生

ご卒業おめでとうござい。春は、新しい出会いの季節です。人と関わる時、社会の常識や自分の考えを押しつけるのではなく、最初から決めつけず、あらゆる可能性を考慮し、あるがままを受け入れる寛容の心を持つことが大切だと思っています。人をそして自分をそのまま受け入れ、感謝の心を忘れず、今を一生懸命生きたいものです。

2組担任
田中 祐輔 先生

僕は、君たちに「ありがとう」と言いたい。映画撮影、体育祭、何より君たち

3組担任
柳井 圭二 先生

と過ごした日々が、僕にはたまらなく楽しいものだったからです。そんな日々の喪失は寂しいものですが、それ以上に君たちの巣立ちを嬉しく思います。君たちらしく、前向きに、自分の道を邁進してください。そして、時に慶進で羽を休めに来てください。僕はいつでも待っています。

御卒業おめでとうござい。式を終え、今実感するのは喜び、感動、感謝、安心と皆いろいろだと思っています。きっとそれらは三年間の達成感によるものであると思います。達成することの大切さと充実感を知った皆さん、今後もそれを糧にそれぞれの道で活躍してください。皆さんならどんなピンチでも笑顔で乗り切り、常に輝いていると先生は確信しています。

中高一貫コース

1組担任
奥迫 美恵子 先生

中高六年間は、まさに

2組担任
早川 武 先生

「蛹が蝶に」劇的な時間です。サードステージと一緒に過ごした私には、皆さんが日々、知力体力を鍛え次の活躍の場を、求め挑んでいく姿が、本当に逞しく映りました。とても「あつ」という間といえない「濃い」六年間でした。この時間は確実に、人間力のベースとして皆さんの中に残ったはず。それぞれの幸福に向け、さらに自分を磨いていくってください。

御卒業おめでとうござい。六年間でたくさん思い出ができたことと思います。いよいよ旅立ちですね。思い切った人生を楽しんでください。時には、苦しいことや悲しいことがあるでしょうが、そんな時には、皆でこう唱えましょう。「ハクナマタタ」それでは、離ればなれになりますが、お互いに楽しい人生を歩んでいきましょう。

恩師との不変の「絆」

いくらか時が経ようとも、いつまでも変わらず存在するのが、恩師との絆。アドバンスコースは山口大学医学部医学科の高木遥香さん(三期生)と同じく山口大学医学部医学科の笹木慶くん(六期生)、グローバルコースは山口大学文学部の坂本真美さん(三期生)、山口大学教育学部の井本幸輝くん(六期生)、そして中高一貫格した棟久晃司くん、関満里奈さんに、各々の恩師と語らって頂きました。

アドバンスの絆

二人は現在山口大学医学部医学科に通われています。いつ医学部を志望しましたか。

高木 最後の最後まで悩んでいました。

工藤 受験の時まで悩んでましたね。お母さんは、文系学部も受験して、それが先に受かって気持ち良かったんじゃないか、と言われてました。

◀左から前田一郎先生、笹木慶くん、高木遥香さん、工藤洋子先生



高木 受験の時は不安もありましたが、とりあえず一つ受かったので吹っ切れました。

笹木 僕は、最初はなれる職業と思ってなかったです。二年生の時に前田先生に、模試の結果をみて、医学部を狙える、言われたのがきっかけです。

前田 一年生の時は東大だったけど、二年生で数学が得意だったから医学部をすすめました。

笹木 それで励まされて、僕も行けるのか、と医学部を意識しました。

受験は不安でしたか。

高木 受ける前は強気というか、不安を他の人に見せたくありませんでした。合格発表の日に受かったと知って、その時、先生の前で号泣しました。

前田 受ける前は不安な感じはなかったけど、発表

進 慶

の日に学校に来た時、顔が真っ白だったね。

卒業した今でも工藤先生、前田先生との「絆」は感じますか。

高木 今も近くにいての年一回は会うことができ、すごく良いことだと思います。

笹木 他の先生が担任というのは考えられないです。自分が変わっている気がするけど、先生は変わっていないので、帰ってきたなど感じます。

グローバルの絆

担任の藤生先生との思い出は何ですか。

井本 僕は入学前に野球部の練習に参加していた、その時職員室に入っ

の 絆

坂本さんはどうですか。

坂本 私はHRの時に先生がよく「グローバル魂」と連呼していたのを覚えていました。

井本 僕の場合は「グローバ

中高一貫の絆

6年間慶進にいて、今はどんな気持ちですか。

関 ついこの間高校生になったと思ったら、もう卒業か、とあつという間だったように感じます。

棟久 6年間一緒にやって来た人が、それぞれ別の大学に行くので、そこが少し寂しいです。ただ、慶進での6年間で、今後大

ルスピリット」でした(笑)

藤生先生の二人の思い出は何ですか？

藤生 井本くんとは、同じように入學式前のことが印象深いですね。坂本さんは、2年生の秋のことが印象深いです。自ら最前列の席を志願した時に、国公立大学に合格するんじゃないかと思いました。

最後に、現在の立場から慶進生に向けて何か一言お願いします。

井本 勉強も自分の好きな事も一生懸命に頑張っ

では、早川先生と一緒に過ごした6年間はとうでしたか。

棟久 楽しかったです。ずっと一緒にだったので、先生と生徒という感じではないですね。

早川 それは本当にそうです。私の子どもとよりも長いですが、本当に家族みたいな感じ。高校3年まで、良いこと、悪い事もあったし、言い合ったり、慰め合ったこともあって、何もかも分かってくを迎えてる感じです。

棟久 普段話をするのは家族よりも早川先生の方が話しやすいかなという

て欲しい。そうしたら、結果は必ずついてくると思っています。

◀左から坂本真美さん、藤生博之先生、井本幸輝くん



感じてました。関 勉強面の話になると、早川先生とよくしていました。親戚のおじさんよりもっと濃い関係です。お年玉が無いだけです。(笑)

◀左から棟久晃司くん(中高III)、早川武先生、関満里奈さん(中高III)



君に託す「慶進」の「心」ハート

「慶進」と縫い込まれたユニフォーム。そこに、各部活動の夢も同時に縫い込まれています。その夢にかけた「心」を、後輩に託す思いを、そして継承される伝統を各部活動の主将に語ってもらいました。

■サッカー部前主将

佐藤 司君(GⅢ)

慶進でサッカーをできたことが一番大きな誇りです。武重先生の指導の下、全国制覇を果たすため、日々の練習に取り組み、

頑張りました。目標は果たせませんでした。一人の人間として成長できた気がします。何より、本気でぶつかり、同じ目標に向かってサッカーをした仲間が、大きな財産となりました。



▲サッカー部元主将 佐藤 司くん(右)
野球部元主将 篠田 誠くん(左)

■野球部前主将

篠田 誠君(GⅢ)

私は、高校生活の三年間、高校野球に携われたことを、とても誇りに思います。この三年間で、私が今まで経験したことのない野球の厳しさ・礼節の大切さなどを学ぶことができました。同時に、私の人生の中で一番大変で、

悩んだ時期でもありました。特に私は主将を務めていたので、チームが試合に勝てなかった時や、うまくチームをまとめることができなかった時、指導者の方やチームに迷惑をかけているのではないかと思うこともありました。そのことで親に八つ当たりをしたこともありました。

そこで、夏の選手権予選で、勝つことが恩返しだと考え、全力を尽くしましたが、結果を出すことができませんでした。だから、私たち三年生の思いを残った後輩たちに託したいと思います。後輩たちは私たちにないものを持っているので、期待しています。

■ソフトテニス部前主将

殿村 優理さん(GⅢ)



まず、12人という少数ながらも、県トップを争えたことは、後輩のおかげです。みんなで一つになって戦ったこと、インターハイ出場できたこと、

沖繩の海で叫んだこと、一つ一つが大切な思い出です。2年生は今からプレッシャーをたくさん感じると思います。しかし、それに負けないで下

■バスケットボール部

橋本 明奈さん(GⅢ) 前主将



一・二年間、私たち三年生についてきてくれてありがとう。私たちの代では、全国の舞台を経験させてあげることができなかったけど、みんなで協力し合い、助け合って先生とコーチを全国大会に連れて行ってあげてください。GO FOR IT! 慶進バスケット部大好きです。

From the Locker Room vol.3

「絆を強め、進化する陸上部」

「こんな陸上部がどこにある!」「自分に甘くて、記録が伸びるか!」などなど。こんな言葉を聞きながら、昼休みに弁当を賞味するのが、近頃の私の日課だ。声の主は、向かいの席の亀山直紀先生。高校時代に4×400mリレーでインターハイに出場した経験を持つ。陸上に対する情熱は量り知れない。その言葉の矛先は、陸上部主将に向いている。毎日のように厳しい言葉を受け止める主将の顔は如何様かと見てみると、真剣に、だが嬉しそうに聞いている。主将と陸上部への信頼があるからこそ、亀山先生のこの厳しい言葉なのだ。亀山先生への信頼があるからこそ、主将のこの表情なのだ。そして、このやりとりが、彼らの絆を強めていく。つい先頃までは、見ることもない光景であった。

平素、「陸上部はまだまだ」と、亀山先生は私に言う。だが、厳しい言葉の背後に深い愛情を感じる。「人としての成長こそ肝要」という彼の下で、陸上部はさらに絆を強め、進化していくだろう。彼らの飛躍への期待は大きい。



▶宇部駅伝に出場した時の陸上部



さい。自分たちのテニスでできた時に強くなれるし、最高の楽しさを感じることが出来ます。一年生はもともとずっと練習して強くなれ。「全国に行く」ではなく、「全国でベスト8」を目標にしてください。全国でたくさん試合をして、強くなって最高の感動と思いが作れるようにみんなが頑張れ。

■バレーボール部前主将

吉永菜々子さん(GⅢ)



私は、バレーボールを通してたくさんの人に出会うことができました。バレー部の仲間とは、怪我

をして辛い時や、試合に負けて悔しい時、いつも支え合ってきました。慶進だからこそ、今の仲間に出会えました。だから、慶進でバレーをして、本当に良かったです。後輩の皆さんも、これからたくさん良い仲間に出会って、卒業するときに慶進でバレーをして良かったなと思える学校生活を送ってください。

生徒会が紙面をジャック!? 生徒会発信ページ「このページは生徒カイ!?」vol.1

Change Standpoint!

慶進生による先生徹底分析

第1回企画は、慶進生による先生徹底分析!

日頃、親身になって勉強を教えてくださいださったり相談にのってくださいたり、とても頼りがいのある先生たち…。生徒たちはそんな先生のことをどう思っているのでしょうか。生徒だから知っている、あの先生のいろんな顔をご紹介します!



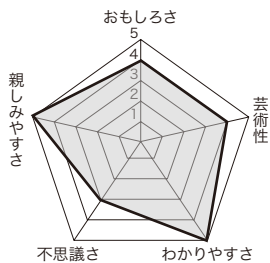
理科

File.01/大冢和治美 先生

■ベンゼンの絵がうまい!
■とても親しみやすい!

先生は勉強以外のことでも、いつもの確なアドバイスをしてくださいます。だから、化学の質問だけでなく、何か相談があるときも大冢先生のところへ行くことをオススメします。優しく、話やすく、面白い先生です。

副会長 川崎 史織さん(中高Ⅱ)



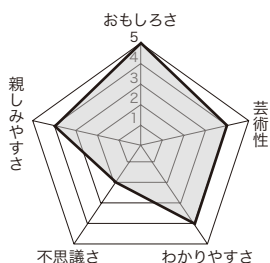
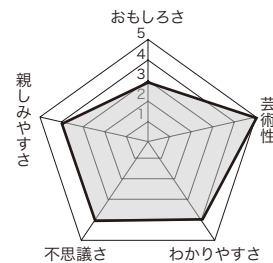
国語

File.02/横山 朋子 先生

■音読の音がきれい!
■字がきれいで黒板が見やすい!

横山先生は、一部の生徒たちから愛称で「マッキー」と呼ばれています。先生の授業は、ゴロ暗記の歌を使うなどユニークでわかりやすいものです。だから、僕はいつでも、質問に行きます。

総務委員長 岡部 航太くん(AⅡ)



先生の授業はとても解り易く、丁寧に教えてくれて、理解できるようにしてくれます。厳しい部分もあるけれど、よく面白いことを言って、生徒を笑わせてくれます。授業以外でもクラスの生徒とよく話し、笑っていて、とても親しみやすく、楽しい先生です。

副会長 中野 悠宇くん(AⅡ)

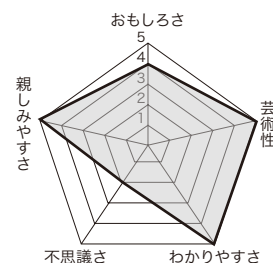


社会

File.04/田中 祐輔 先生

■人物画のうまさに心奪われた!
■料理を一度食べてみたい!

先生には、いろいろなこだわりがあります。例えば製本です。授業ではノートではなく手製のテキストを使います。また、イタリア料理が得意なようです。僕は料理の話を聞くと、食べてみたいと思います。こだわりを持った先生に皆さんも話しかけてみてください。 総務委員 村田 裕如くん(中高Ⅱ)

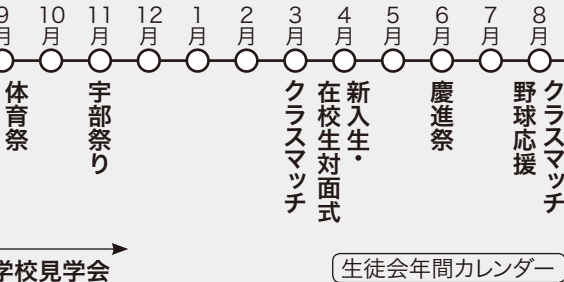
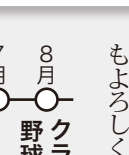


英語

File.03/前田 一郎 先生

■目がきれい!
■頼りになる!

先生は、いろいろなこだわりがあります。例えば製本です。授業ではノートではなく手製のテキストを使います。また、イタリア料理が得意なようです。僕は料理の話を聞くと、食べてみたいと思います。こだわりを持った先生に皆さんも話しかけてみてください。 総務委員 村田 裕如くん(中高Ⅱ)



高校生になると、将来のことを考えざるを得なくなります。気ままな子ども時代は終わり、大人になり、社会に出なければなりません。ですが、私たちはまだ大人ではありません。今は、損得抜きに物事に熱くなれる時です。そんな時を、生徒会は慶進生とともに充実させたいと考えています。そのためには、皆さんの力が不可欠です。生徒会役員は、皆さんの力を糧にして、慶進高等学校がより良くなるように努力し、頑張っていきます。これからもよろしく願います。



生徒会長
北坂 醇矢くん(中高Ⅱ)

第3号より、生徒会担当ページができました。驚かれた方もおられるかもしれませんが、そこで、ページタイトルは「このページは生徒カイ(念!)」と銘打ちました。慶進生から見た慶進の姿を紹介していこうと思います。今回は慶進生へのアンケートを基にした先生の紹介です。

慶進の小窓

Vol.3

この小窓を開ければ、常盤公園が見える。あの小窓を開ければ、第一グラウンドが見える。慶進にはそんな小窓がたくさんあります。でも、きっと慶進を見るための小窓もあるはず。そんな小窓を紹介する「コーナー」が、この「慶進の小窓」第3回の「小窓」は、「4号館」です。正門から入ると左手正面に見える「4号館」。ここには、学校の心臓とも言える「職員室」があります。休み時間には、多くの慶進生が訪れ、先生に質問をし、相談をし、先生との絆を深めてきました。だが、その「4号館」が、来年度新校舎建築にともない、解体されます。しかし、その姿は永遠に慶進生の心に生き続けるでしょう。今回の「小窓」では、慶進の姿を見るときにも、「4号館」の姿を記録に残したいと思います。

おつかれさま4号館

形はなくなれど、その姿は永遠に我々の心に残る



(上段)前庭から撮影した4号館正面 (中段上)セミナールーム1で行われた進学ガイダンス
(中段下)昼休みの職員室 (下段)4号館4階から見た慶進中・高等学校

■藤野恭平先生

慶進に来て初めての冬、厳しい寒さに職員室の私は苦しみました。単に冬だからではありません。生徒が来る度に冷たい

空気が、ドア近くに座る私を襲うのです。休み時間、放課後になると大変多くの生徒が職員室を訪れます。単に先生と雑談をする生徒もいれば、質問や進路相談をする生

徒もいます。彼らが来る度に寒い思いをする私、しかし同時に先生と生徒が楽しく、時に真剣に話す温かい姿が見られます。先生の部屋、ではなく生徒のいる笑顔と、活気のある職員室こそが、慶進の職員室だと強く感じます。私もそのような雰囲気をする

切にし、生徒の皆さんにとって身近な先生でありたいと思います。



新校舎Profile

慶進初の5階建て
各階5教室
もちろんエアコンも!



第3回

毎週金曜午後5時~FMきらら80.4hzで放送中

Keishin Radio Station

(ナビゲーターの松原敦子さんからメッセージをいただきました。)

ナビゲーターの松原敦子さんからメッセージをいただきました。

慶進高等学校三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。晴れやかな果立ちに、心からお祝い申し上げます。

番組を通して、慶進生の学校行事や部活動に取り組み、受験に挑戦する様子、またそれを支える先生方の励ましの言葉など、多くの事をお伝えしてきました。毎回の生放送には、慶進生を代表して、何人もの方々がスタジオに来て下さり、ドキドキしながら、それぞれの思いを語って下さいました。

そこで、私が感じたのは、皆さんが慶進が大好きで、豊かな個性あふれる先生方を慕い、出会った友達をとっても大切にしているということです。皆さん、一人一人の頑張り、慶進に大きな輝きを与えているのです。そして、その一人一人の頑張り、お互いを支え、後の自分自身をも支えてくれることでしょう。

今度は、卒業生代表としてスタジオに来て下さいね。これからもFMきららをよろしく願います。



須子 美里さん(AⅡ)

私にとって職員室は、とても居心地の良い場所でした。三年間を振り返ると、職員室はたくさんの思い出の

ある場所です。質問に行くと、先生にいつも優しく教えて頂き、すぐに疑問を解決することができました。勉強だけでなく、進路の相談や他愛もない会話で、元気をもらっていました。慶進には、生徒の話に親身になって聞いてくださる先生がたくさんいます。友達や家

族には話づらいような相談も、安心してできました。また、授業で直接お会いすることのない先生とも、気軽に話せることのできる空間でした。職員室は、私の大好きな場所の一つでした。